様式２－２（年度末）

令和６年度　学校評価　年度末評価（学校関係者評価）

学　校　名	北秋田市立　鷹巣中　　学校	学校運営協議会	令和7年1月29日
校　長　名	山田　理	開　催　日	
学校教育目標	心豊かな、創意に富んだ、たくましい生徒の育成		

項目　１　活性化のための取組

学校の取組概要

人、物、こととかかわり、地域や学校にプライドをもつ
１　キャリア教育
・計画的な進路指導　・系統的な進路指導
２　ふるさと教育
・伝統を知り、守り、共に行う　・地域を知り、伝える活動
３　学校・家庭・地域、関係機関との連携・協働
・保護者・地域への情報発信と交流　・地域の教育力の活用

自己評価	
中間	年末
4・③・2・1	4・③・2・1

学校運営協議会の意見等

・総合的な学習の３年生、北秋田市未来への提言について。この取組は、本質を捉えているよい取組であり、可能な限り市民へ提言の内容を披露していただきたい。地域の方からの感想を伝えることで、地域の方の思いを知るとやり甲斐を感じ、これからに繋がる。
・地域人材の活用に関して、数年前に、外部の人材の活用が見受けられたが、その後は活用が進んでいるのか？市外での経験が豊富な方もいて、ぜひ活用していただきたい。
・地域との関わりの中で、鷹巣の偉人？先人？について、調査をしてはどうだろうか。このような人物について、学ぶのは中学校期ではないだろうか。また、綴子神社の成り立ちについて学ぶことも興味深い。地域の歴史や祭についても学ぶことを進めるべきではないだろうか。
・学校予算の減少により、消耗品の購入が難しくなっている。物価上昇の中で、この部分への対応はどうなっているのか？例えば、ふるさと納税の使い道にも縛りがあり、学校予算が十分に配当されていない状況ではないのか？現状をしっかりと把握していかなければならない。

関係者評価：4・③・2・1

次年度の施策

・総合的な学習の時間の探究活動については、各学年のテーマを工夫して、系統的なつながりができるようにする。地域を知り、地域に愛着をもたせるために、様々なボランティア活動を生徒に紹介し、各家庭の御協力も得ながら自主的な参加を募ってきた。今後も関係諸団体と連携を図りながら、ボランティアの幅を広げるとともに、地域に愛着をもてるような活動を更に拡大していきまたい。
・昨年度と同様に、家庭科では地域の方から浴衣の着付けについて指導していただいた。２年生では２学期後半から３学期にかけて保育園問も実施できた。今後も、授業における地域人材（本校卒業の高校生・大学生を含む）の活用による教育の拡充に取り組んでいく。
・校内ハローワークでは、全体会の導入部で「学生時代に大切な学びや生活」と題し、初任者の教諭２人を講師としてパネルディスカッションを行った。その後、16事業所の方をお招きして講座を設定し、生徒一人一人が自分のこれからの生き方について学びを深めた。今後は、次年度のキャリア教育計画の作成に向けて、体験活動や取組内容の精査をしていきたい。

項目　２　知　　育

学校の取組概要

主体的に学び、学び合いを通して互いに深め合う
１　自律した学習習慣を基に、基礎的・基本的な学力の定着
・基本的な学習習慣の形成　・自主的な学習習慣の形成　・個に応じた指導の工夫
２　主体的に課題を捉え、共に学びを深めて解決
・対話的な学びの工夫　・深い学びの工夫

自己評価	
中間	年末
4・③・2・1	4・③・2・1

学校運営協議会の意見等

・ほとんどのクラスで電子黒板の利用があった。意見の集約や表現がスムーズになされており、感心した。ただ、賑やかさは前と比べると少なく感じた。だが、考えの比較が落ち着いた中で実現されている。資料も、画面に見やすく写されており、感心した。
・授業参観からは、３年生が大人になったと感じた。明るくよい雰囲気で学習に取り組むことができている。

関係者評価：4・③・2・1

次年度の施策

・基本的な学習習慣の形成については、年度当初の会議等で共通理解の上、各学年・教科で足並みを揃えた実践に取り組んでいるが、個々に課題が見られる生徒もいるため、粘り強く繰り返し指導していく。また、生徒会の学習委員会が授業のルールの徹底と、チャイム学習を意識するよう「授業チェック強調習慣」を設けて取り組んでいる。「２分前着席」「姿勢」「温かい反応」の観点で授業者が評価し、点数化して競い合っている。１、２年生では学年末テストに合わせて「ノートグランプリ」を開催し、友達の勉強方法から学ぶ機会を設定した。
・ＩＣＴを活用し、生徒一人一人の考えを「見える化」し、互いの考えを交流し、対話することによって学びが深められるように継続して工夫している。学習課題を明確に示し、一人一人に自分の考えをしっかりともたせること、思考ツールを用いて個々の考えをグループで検討したり、学級全体で深めたりすることに力を入れながら、よりよい授業を目指していく。

項目	3 徳　　育	
学校の取組概要	**自律の精神を重んじるとともに、相手と心を通わせる** **1　学級活動・学校行事を通した鷹中プライドの醸成** **・自己有用感を高める環境づくり　・自他の理解を深める集団づくり** **2　意見を交流する生徒会活動** **・創意を生かした生徒会活動　・友や地域を元気にする活動** **3　道徳性を育てる実践** **・道徳科の授業と振り返りの工夫**	自己評価 中間：4・③・2・1 年末：4・③・2・1
学校運営協議会の意見等	・スマートフォンの利用が進んでいる。学校での指導は進んでいるが、いざ自分のものをもつと、指導が他人事となり、様々なことが起きてしまう。 ・子どもの携帯電話所持により、ＳＮＳトラブル等、心配なこと多く危惧している。子どもたちにもその点を分かってもらうようにしたい。 ・ペーパーレス化できるものとそうでないものもある。ペーパーレス化により、親子の会話が減ってしまうことも…	関係者評価 4・③・2・1
次年度の施策	・学年主任のリーダーシップの下、学級担任と学級委員等が相談しながら学級づくりを進め、自己有用感の向上に取り組んできた。また、合唱祭・鷹中祭では、それぞれの生徒が自分の持ち味を発揮して周りから認められることにつながった。３年生が全校をリードして練習などを進める場面が多く見られ、その表現力は、１・2年生の目標となるものでした。鷹中プライドの醸成につながる取組だった。 ・生徒会役員選挙を行い、各種委員会の委員長も２年生となり、現在引継ぎをしているところである。１・2年生全員に「自分たちの出番」という前向きな気持ちをもたせ、自律した取組ができるように、学年主任を中心に戦略的な取組を進めていく。ボランティア活動については、今後も地域や団体等からの依頼を生徒会を通じて生徒に紹介し、希望する活動に参加するスタイルを継続させ、一人一人の振り返りを大切にして進めていきたい。 ・学年毎のローテーション道徳の実践を継続し、道徳の授業がどの学級でも確実に行われるように取り組んでいく。道徳の授業実践を通じて生徒一人一人が感じたことや考えたことを安心して話すことができる学級づくり・集団づくりを目指す。	

項目	4 体育・健康教育	
学校の取組概要	**鷹中プライドを育み、心身の変化や成長を認め合う** **1　心の健康の保持増進** **・安全・安心な生活の推進　・教育相談、諸調査・アンケートの活用** **2　自律による体の健康と増進** **・望ましい生活習慣の形成　・継続的な体力つくりの実践** **3　危機管理・不祥事防止** **・安心して学べる校内外の環境の整備　・研修の継続実施** **4　教職員の心身の健康** **・勤務時間の適正化　・休養日の確保**	自己評価 中間：4・③・2・1 年末：4・③・2・1
学校運営協議会の意見等	・最近の挨拶が、生徒から挨拶をしてくるケースがない。こちらから挨拶をすると、やっと返してくれる。前はやりすぎ感があり、そこまでは必要ないが、地域との繋がりを意識するためには、コミュニケーションの第一歩である挨拶を大切にし、再度、その意味を考えた挨拶指導をお願いしたい。 ・不登校は以前よりは少なくなっていると思うが、小学校までは元気に登校していた生徒が中学校で行けなくなる。何が理由かは分からないが、話を聞いてくれる人がいれば…。大切にしてほしい。 ・先生方の超過勤務がかなりひどい状況であり、働き方改革が進んでいない。ここは、何とかして改善しなければいけないところである。また、教職員は、残業手当がなく、一律の手当が与えられている。時間に見合ったものがあるとよいのだが。 ・生徒指導が絡むと…とてもではないが、設定した勤務時間を達成できない状況なのではないか。何かを抜本的に変えていかなければいけない状況ではないだろうか。	関係者評価 4・③・2・1
次年度の施策	・鷹中プライドの下、前期の反省を踏まえ、学校生活の約束を意識・徹底させるとともに、自律した行動ができるよう自分の行動を見つめる機会を設け、その意識を育みながら全校の安全・安心を確保してきた。今後も、生徒に関わる情報へのアンテナを高くし、生活ノートや自学ノートを通じて学級担任等と生徒が交流する中で悩みを把握していく。さらに、スクールカウンセラーの相談活動との連携も充実させ、不登校やいじめ・体罰の防止に力を尽くす。 ・年度後半は家庭で過ごす時間が増え、ゲームやスマホ等による生活習慣の乱れが心配されることから、親子学習会や全校集会等で取り上げたり、指導したりした。生徒・家庭との相談活動、教職員間の情報交換により早期対応ができたケースもあった。今後も、SNSの利用にかかる安全指導・マナー指導に取り組んでいく。また、SNSへの画像等のアップには細心の注意を払っていく。 ・生徒の交通事故防止だけでなく、普段の学校生活の観察や情報収集に努め、ゲーム利用・ネット利用などによる健康被害・犯罪加害被害とならないよう継続した指導に取り組む。教職員の事故防止については会議等で様々な研修や資料配付を行う。校内では、厳寒期に対応した換気方法を工夫するなど、新型コロナやインフルエンザ等への対策を講じたり、積雪時における避難経路の確保等に努めたりする。 ・働き方改革の意識を醸成し、高めるようにしたい。また、親の会と連携を取りながら、冬季の部活動の活動時間の約束を守ることを継続していく。地域移行については市主催の検討委員会との連携強化に努め、よりよい方向性を研究したい。	

＊評価は、４段階（４：十分達成できている　３：達成できている　２：少し不十分である　１：不十分である）